



緩和ケアだより

平成 20 年 6 月 27 日 第 2 号

第1回秋田大学緩和ケア研修会が開催されました！

5月31日(土)、本学6講義室において、平成20年度第1回秋田大学緩和ケア研修会が開催されました。当院緩和ケアチーム薬剤師の庄司より、当院の緩和ケアの現状について報告があり、続いて特別講演として、筑波大学大学院 人間総合科学研究科 講師 木澤義之 先生より

「がん緩和ケア概念と地域における緩和ケアへの展開」

と題して、ご講演がありました。以下に木澤先生のお話の内容を少しご紹介します。



緩和ケアチームでは、本年度内にあと3回の研修会を企画予定です。順次お知らせいたしますのでぜひご参加下さい

p(^ ^)q



☆がん化学療法と緩和医療の目標は一致しています！

がん化学療法(再発がん)の目標と緩和医療の目標は共に患者さんの予後の延長とQOL向上です。従って両者を同時に提供するのが理想的です。がん治療と共に、緩和医療を早期から行いましょう。

☆がん治療医へのメッセージ

緩和医療は、いつでも、どこでも、誰にでも行われるべきものです。従って、基本的な知識は誰もが身につける必要があります。

☆緩和ケア紹介時には病気の時期ではなく苦痛に焦点を当てる！

○望ましい例…「もっと日常生活を活動的にするために、つらいところ(痛み、不眠、吐き気など)を診てもらいましょう」

×望ましくない例…「末期だから診てもらいましょう」「もうすることはないので診てもらいましょう」

この他にもたくさんの貴重なお話をさせていただきました。ありがとうございました。

ウラにはこれまでの緩和ケアチームへの依頼についてまとめました。ぜひご覧下さい。

緩和ケアチーム～これまでの依頼件数報告(H20年5月現在)～

当チーム発足(H17年10月)からの依頼件数 計23件

依頼患者の転帰について

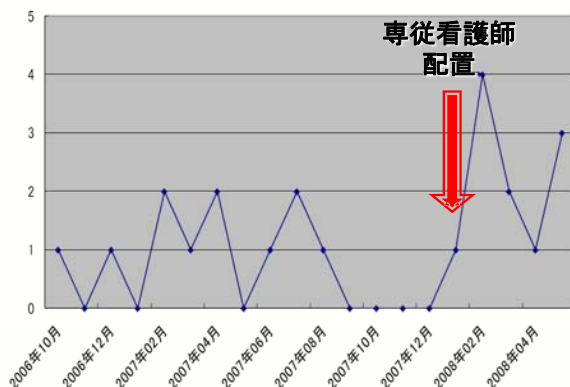
* 依頼から転帰までの期間 30.1日

* 依頼患者の転帰と依頼からの期間

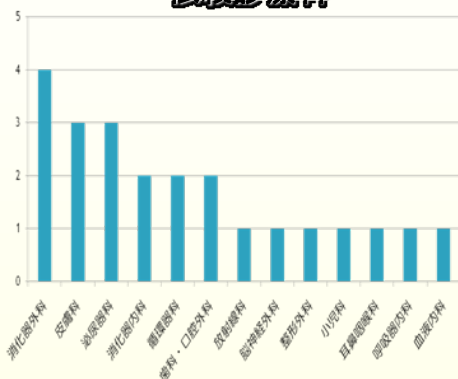
退院 6名 (平均39.3日)

転院 5名 (平均39.6日)

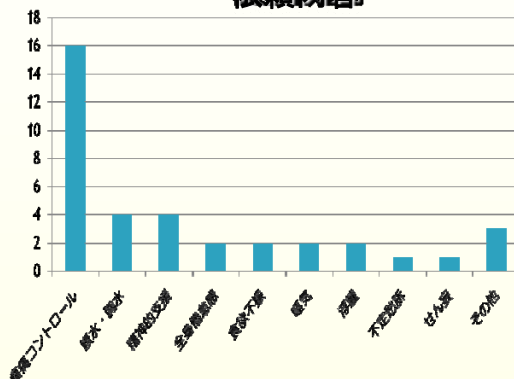
死亡 12名 (平均21.6日)



依頼診療科



依頼内容



主治医からのご意見・ご感想など(転帰報告書より抜粋)

◎ターミナルケアに入っていくと我々も考えが孤立しがちになりますが、気軽に相談できる、また、チーム全体がそういった雰囲気を持っており、主治医としては大変心強かったです。もっと早い段階で皆さんに相談し、意見を伺っていれば、患者にとって残った時間をさらに有意義にできたのではないかと思います。

◎疼痛コントロールのみならず、精神症状のケアまでしていただき、自分自身勉強になることが多かったです。

◎がん性疼痛に対する疼痛コントロール及びオピオイドによる様々な副作用対策について学ぶことが多かったです。

◎主治医、担当看護師だけでは精神的なケアを十分出来ない状況であり、この点緩和ケアチームが介入したことで自分たちの回診の役に立ちました。ただ、主治医の考えとケアチームの考えの相違は必ずあると思うので、今後お互い十分なコミュニケーションが必要と思われました。

◎麻薬の具体的な使用方法の御教示いただき大変助けになりました。また、主治医のみでは聞き出せない患者・家族の意向を聞き出してもらえたことも療養方針決定に際して大きな助けとなりました。

◎緩和ケアチームと一緒に診療して、様々な角度からの緩和ケアがあることがわかりました。

◎現在は毎日ラウンドしてもらえるので、日々の変化に応じた対応、相談が可能で大変助けになりました。

主治医、病棟スタッフの皆さまのご理解、ご協力のもと当チームへのご依頼をいただいております。その一つ一つの症例を大切にしながら関わらせていただき、私たちチームメンバーも皆さんからいただいた症例を通して学び、育てていただいております。患者さんとそのご家族のより良いQOL維持のためお手伝いさせていただきたく日々活動してまいりますので、今後も緩和ケアチームをよろしくお願いいたします。

秋田大学医学部附属病院 緩和ケアチーム

TEL:6223

メールアドレス:kanwa-t@hos.akita-u.ac.jp

